

# 令和2年度滝沢市の全体財務書類(概要版)

市には一般会計のほか、特定の行政サービスを目的とした特別会計や事業会計があり、会計間で出資金や繰出金、負担金・補助金等の授受(内部取引)を行っています。全体財務書類とは、各会計を連結してひとつの行政サービス実施主体としてとらえ、市全体の財務状況を総合的に把握することを目的として作成するものです。

全体財務書類の作成にあたっては、連結対象会計間の内部取引を相殺消去しています。

【金額の会計ごとの内訳】 (単位:百万円)	貸借対照表				行政コスト計算書			純資産変動計算書	資金収支計算書	
	資産	負債	うち 地方債	純資産	経常 費用	経常 収益	純経常 行政コスト	財源	資金 収支	資金 残高
全体財務書類を構成する会計 (連結対象会計)										
一般会計	64,697	19,906	18,604	44,791	24,573	761	23,812	23,384	110	573
国民健康保険特別会計	960	5	0	955	4,595	20	4,575	4,561	33	79
後期高齢者医療特別会計	5	0	0	5	430	1	430	429	△ 1	4
介護保険特別会計	483	9	0	474	3,812	0	3,811	3,993	139	180
介護保険介護サービス事業特別会計	0	0	0	0	16	10	6	6	0	0
水道事業会計	10,529	4,791	2,104	5,738	886	896	△ 10	157	141	1,084
下水道事業会計	17,225	14,084	5,257	3,141	983	523	460	599	47	277
相殺消去	△ 958	0	0	△ 958	△ 1,440	△ 11	△ 1,429	△ 1,429	0	0
合計(全体財務書類計上額)	92,941	38,796	25,964	54,145	33,855	2,200	31,656	31,699	468	2,198

※合計欄の金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

## 令和2年度滝沢市の全体財務書類 (財務書類4表の相互関係)

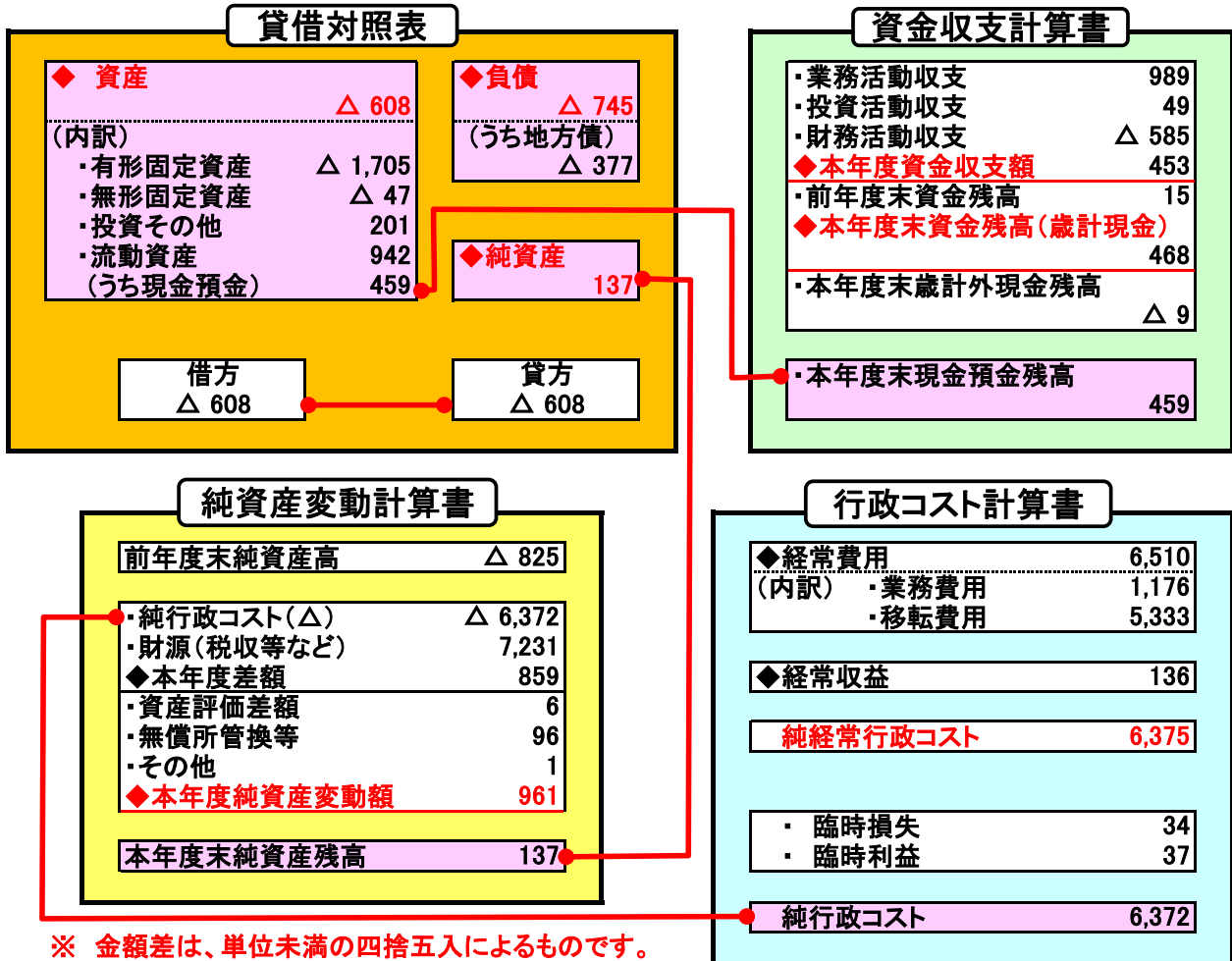
(単位:百万円)



※金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 令和2年度滝沢市の全体財務書類 (対前年度増減額)

(単位:百万円)



※ 金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

**【金額の会計ごとの内訳  
(対前年度増減額)】**  
(単位:百万円)

全体財務書類を構成する会計 (連結対象会計)	貸借対照表				純資産変動計算書			資金収支計算書		
	資産	負債	うち 地方債	純資産	経常 費用	経常 収益	純経常 行政コスト	財源	資金 収支	資金 残高
一般会計	△ 652	△ 320	△ 256	△ 332	6,455	127	6,328	7,046	84	110
国民健康保険特別会計	△ 14	1	0	△ 15	△ 153	△ 16	△ 137	△ 101	32	33
後期高齢者医療特別会計	△ 1	0	0	△ 1	23	0	24	21	△ 3	△ 1
介護保険特別会計	184	2	0	181	119	△ 2	121	266	138	139
介護保険介護サービス事業特別会計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水道事業会計	32	△ 141	△ 80	173	20	4	16	2	169	141
下水道事業会計	△ 136	△ 287	△ 41	151	36	23	13	△ 11	33	47
相殺消去	△ 21	0	0	△ 21	10	0	10	10	0	0
<b>合計(全体財務書類計上額)</b>	<b>△ 608</b>	<b>△ 745</b>	<b>△ 376</b>	<b>137</b>	<b>6,510</b>	<b>135</b>	<b>6,375</b>	<b>7,231</b>	<b>454</b>	<b>468</b>

※ 合計欄の金額差は、単位未満の四捨五入によるものです

## ● 令和2年度の概況

### 【貸借対照表】

資産92,941百万円に対して負債38,796百万円(対資産比41.7%)となり、資産から負債を差し引いた正味資産としての純資産は54,145百万円(対資産比58.3%)となりました。

資産の内訳は、固定資産87,129百万円(対資産比93.7%)、流動資産5,812百万円(対資産比6.3%)で、主な固定資産には、一般会計のインフラ資産(道路・公園に係る土地・工作物等)が33,556百万円(対資産比36.1%)、水道及び下水道事業会計のインフラ資産(上下水道施設等)が24,520百万円(対資産比26.4%)があります。

負債の内訳は、固定負債36,640百万円(対負債比94.4%)、流動負債2,156百万円(対負債比5.6%)で、地方債が25,964百万円、水道及び下水道事業会計の繰延収益(長期前受金)が11,404百万円と、負債全体に占める割合はそれぞれ64.3%、29.4%となっています。

### 【行政コスト計算書】

経常費用33,855百万円に対して経常収益2,200百万円となり、経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは31,656百万円となりました。これに臨時損失から臨時利益を差し引いた額を加えた純行政コストは31,681百万円となりました。なお、経常収益には上下水道使用料が計上されますので、水道及び下水道事業会計の行政コストは他会計と比べて少ない額となっています。

### 【純資産変動計算書】

純行政コストから当年度の税込等15,116百万円、及び国県等補助金16,583百万円を控除した本年度差額は18百万円のプラスとなりました。この本年度差額に資産評価差額、無償所管換等、その他を加除した本年度純資産変動額は137百万円のプラスとなった結果、本年度末純資産残高は54,145百万円となりました。

### 【資金収支計算書】

業務活動収支は2,544百万円の黒字、投資活動収支は1,717百万円の赤字、財務活動収支は358百万円の赤字となり、3つの活動収支を合わせた本年度資金収支額は468百万円の黒字となりました。この額に、前年度末資金残高(前年度の繰越金)1,730百万円を加えた本年度末資金残高(本年度の歳入歳出差引額)は2,198百万円となり、歳計外現金の前年度末残高及び当年度中の増減額を加えた、本年度末現金預金残高(貸借対照表の流動資産の「現金預金」計上額)は2,206百万円となりました。

## ● 令和2年度の概況(対前年度増減額)

### 【貸借対照表】

前年度に対して、資産は608百万円減少( $\Delta 0.6\%$ )し、負債は745百万円減少( $\Delta 1.9\%$ )したことから、結果として資産から負債を差し引いた純資産は137百万円増加( $0.3\%$ )しました。

資産では、事業用資産の建物及びインフラ資産の工作物の減価償却等により固定資産は1,550百万円減少( $\Delta 1.7\%$ )し、財政調整基金の増加等により流動資産は942百万円増加( $+19.3\%$ )しました。

負債では、地方債の増加等により固定負債は778百万円減少( $\Delta 2.1\%$ )し、未払金の減少等により流動負債は33百万円増加( $+1.6\%$ )しました。

### 【行政コスト計算書】

前年度に対して、経常費用は6,510百万円増加( $+23.8\%$ )した一方、経常収益は136百万円増加( $+6.6\%$ )した結果、経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは6,375百万円増加( $+25.2\%$ )しました。また、純行政コストは6,372百万円増加( $+25.2\%$ )しました。

### 【純資産変動計算書】

前年度に対して、純行政コストは6,372百万円増加( $+25.2\%$ )した一方、財源としての税込等は639百万円増加( $+4.4\%$ )し、国県等補助金は6,592百万円増加( $+66.0\%$ )したこと等により、本年度純資産変動額は前年度が824百万円のマイナスであったのに対して、令和2年度は137百万円のプラスとなりました。(前年度との差額+961百万円)

### 【資金収支計算書】

前年度に対して、業務活動収支は989百万円のプラス( $+63.6\%$ )、投資活動収支は49百万円のプラス( $+2.8\%$ )、財務活動収支は585百万円のマイナス( $\Delta 257.7\%$ )となった結果、本年度資金収支額は453百万円のプラス( $+3,020.0\%$ )となりました。

# 全体貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	87,129百万円	固定負債	36,640百万円
有形固定資産	84,250百万円	地方債	24,113百万円
事業用資産	25,907百万円	その他※2	12,526百万円
土地	7,661百万円	流動負債	2,156百万円
立竹木	2,102百万円	1年内償還予定地方債	1,851百万円
建物※1	14,545百万円	その他※2	305百万円
工作物※1	1,435百万円	<b>負債合計</b>	<b>38,796百万円</b>
その他※2	165百万円	<b>【純資産の部】</b>	
インフラ資産	58,076百万円	固定資産等形成分	90,569百万円
土地	15,358百万円	余剰分(不足分)	△ 36,424百万円
建物※1	248百万円		
工作物※1	40,963百万円		
その他※2	1,506百万円		
物品※1	267百万円		
無形固定資産	1,922百万円		
投資その他の資産	957百万円		
うち基金	611百万円		
流動資産	5,812百万円	<b>純資産合計</b>	<b>54,145百万円</b>
うち現金預金	2,206百万円	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>92,941百万円</b>
うち財政調整基金	2,558百万円		
うち減債基金	883百万円		
<b>資産合計</b>	<b>92,941百万円</b>		

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

※1 「建物」、「工作物」、「物品」の金額は、減価償却累計額控除後のものです。

※2 「その他」の金額は、各区分で示している勘定科目以外の合計です。

「貸借対照表」とは、会計年度末の市の財政状況についての情報を示すもので、左右の合計額が等しくなり、資産と負債のバランスを把握することが容易となっています。

## ◆資産

市が行政サービスを提供するために保有し、あるいは将来サービスを提供するために用いることができる資源のことです。

### ・事業用資産

庁舎、学校、コミュニティセンターなどインフラ資産以外の有形固定資産

### ・インフラ資産

道路・公園など(一般会計)、**上下水道施設(事業会計)**

### ・物品

### ・無形固定資産

商標権など

### ・投資その他の資産

有価証券、出資金・出損金、特定目的基金、長期延滞債権など

### ・流動資産

現金預金、財政調整基金、減債基金(満期)

## ◆負債

市のこれまでの行政活動の結果により現在有することとなった、将来世代が負担する債務のことです。

その他には、退職手当や賞与等に係る引当金などが計上されています。

## ◆純資産

市のこれまでの行政活動の結果としての資産から、将来世代が負担する債務である負債を差引いた正味財産のことです。

純資産はこれまでの世代の負担によって蓄積された、将来世代が利用可能な資源の価値であると考えられます。

純資産合計とその内訳の固定資産等形成分と余剰分(不足分)は、「純資産変動計算書」の本年度末純資産残高に連動します。

# 全体行政コスト計算書

自 令和 2年4月 1日  
至 令和 3年3月31日

科目	金額
<b>経常費用</b>	<b>33,855百万円</b>
業務費用	13,218百万円
人件費	2,712百万円
職員給与費	2,038百万円
賞与等引当金繰入額	193百万円
退職手当引当金繰入額	0百万円
その他	482百万円
物件費等	10,131百万円
物件費	6,380百万円
維持補修費	341百万円
減価償却費	3,410百万円
その他	0百万円
その他の業務費用	375百万円
支払利息	192百万円
徴収不能引当金繰入額	3百万円
その他	180百万円
移転費用	20,637百万円
補助金等	17,555百万円
社会保障給付	3,072百万円
他会計への繰出金	0百万円
その他	11百万円
<b>経常収益</b>	<b>2,200百万円</b>
使用料及び手数料	1,520百万円
その他	680百万円
<b>純経常行政コスト</b>	<b>31,656百万円</b>
臨時損失	63百万円
災害復旧事業費	0百万円
資産除売却損	63百万円
臨時利益	38百万円
資産売却益	36百万円
その他	2百万円
<b>純行政コスト</b>	<b>31,681百万円</b>

翌会計年度に支払われる期末勤勉手当等の本  
会計年度勤務実績分の支出見込額

本会計年度末で全職員が自己都合により退職す  
ると仮定した場合の退職手当支給総額から退職  
手当組合積立金及び運用益を控除した額

建物や工作物などの償却資産は、利用可能とさ  
れる年数(耐用年数)の間に価値が目減りしてい  
くが、その本会計年度分の目減り額

将来において発生が懸念される未収金・長期延  
滞債権に係る不納欠損額について、過去の徴収  
不能実績率より算出した見込額の本会計年度増  
額分

「行政コスト計算書」とは、会計年度中の市の費用と収益の取引高を明らかにし、行政コストにつ  
いての情報を示すものです。

## 【費用とは】

資産形成や地方債元金償還に関わる経費を除く、行政サービスを提供するための経費をいいま  
す。国民健康保険や介護保険などの保険給付費は、移転費用の補助金等に計上しています。

## 【収益とは】

税収等や国県等補助金といった直接的な対価性のない収入を除く、行政サービスの対価としての  
使用料や手数料、あるいは財産収入や諸収入など通常の事業過程で得られた収入をいいます。国  
民健康保険税や介護保険料などの保険税収入は税収等として、「全体純資産変動計算書」に計上  
しています。

費用や収益には、発生主義による減価償却費や徴収不能引当金繰入額などの現金支出を伴わな  
いコストが含まれるとともに、取引高は貸借対照表の勘定科目である各引当金や未収金、未払金  
などとの仕訳処理がなされたものとなっており、これまでの現金主義による歳入歳出決算書では見  
えにくかった行政コストの情報を、より適正に把握することが可能となっています。  
この計算書で算出された純行政コストは、「純資産変動計算書」に連動します。



# 全体純資産変動計算書

自 令和 2年4月 1日

至 令和 3年3月31日

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	54,008百万円	91,635百万円	△ 37,626百万円
純行政コスト(△)	△ 31,681百万円		△ 31,681百万円
財源	31,699百万円		31,699百万円
税金等	15,116百万円		15,116百万円
国県等補助金	16,583百万円		16,583百万円
本年度差額	18百万円		18百万円
固定資産等の変動(内部変動)		△ 1,145百万円	1,145百万円
有形固定資産等の増加		1,711百万円	△ 1,711百万円
有形固定資産等の減少		△ 3,558百万円	3,558百万円
貸付金・基金等の増加		1,530百万円	△ 1,530百万円
貸付金・基金等の減少		△ 828百万円	828百万円
資産評価差額	5百万円	5百万円	
無償所管換等	96百万円	96百万円	
その他	18百万円	△ 21百万円	39百万円
本年度純資産変動額	137百万円	△ 1,066百万円	1,202百万円
本年度末純資産残高	54,145百万円	90,569百万円	△ 36,424百万円

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

「純資産変動計算書」とは、会計年度中の市の純資産及びその内部構成の変動の情報を示すものです。

純資産の増加要因としては、税金等や国県等補助金の財源の固定資産等形成分への流入、有価証券等の時価評価差益、寄付等による資産の無償取得、過年度取得資産に係る固定資産台帳価格の修正(増加)などがあります。

純資産の減少要因としては、有価証券等の時価評価差損、資産の売却(元本分のみで売却差額は臨時損益として費用計上)や除却、過年度取得資産に係る固定資産台帳価格の修正(減少)などがあります。

この計算書で算出された本年度末純資産残高とその内訳の固定資産等形成分と余剰分(不足分)は、それぞれ「貸借対照表」の純資産合計とその内訳に連動します。

## 【固定資産等形成分とは】

資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態(固定資産等)で保有されます。具体的には貸借対照表の固定資産と短期貸付金、基金の合計となります。

## 【余剰分(不足分)とは】

市の費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有されます。具体的には、貸借対照表の純資産額合計から固定資産等形成分を差し引いた額です。

## 【固定資産等の変動(内部変動)とは】

有形固定資産等または貸付金・基金等の増加については、これらの資産を取得するための支出の財源が「余剰分(不足分)」から「固定資産等形成分」に振替えられたことを示します。

逆に、有形固定資産等または貸付金・基金等の減少については、これらの資産の減少額または減価償却費相当額の財源が「固定資産等形成分」から「余剰分(不足分)」に振替えられます。

この内部変動に関する情報を加えることによって、純資産計算書における財源情報について明らかにすることができます。※付属明細書3(2)「財源情報の明細」

# 全体資金収支計算書

自 令和 2年4月 1日

至 令和 3年3月31日

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	30,430百万円
業務費用支出	9,792百万円
人件費支出	2,695百万円
物件費等支出	6,723百万円
支払利息支出	192百万円
その他の支出	182百万円
移転費用支出	20,638百万円
補助金等支出	17,555百万円
社会保障給付支出	3,072百万円
他会計への繰出支出	0百万円
その他の支出	11百万円
業務収入	32,979百万円
税収等収入	14,691百万円
国県等補助金収入	16,153百万円
使用料及び手数料収入	1,526百万円
その他の収入	610百万円
臨時支出	7百万円
災害復旧事業費支出	0百万円
その他の支出	7百万円
臨時収入	2百万円
<b>業務活動収支</b>	<b>2,544百万円</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	3,247百万円
公共施設等整備費支出	1,696百万円
基金積立金支出	1,430百万円
投資及び出資金支出	4百万円
貸付金支出	118百万円
その他の支出	0百万円

科目	金額
投資活動収入	1,530百万円
国県等補助金収入	499百万円
基金取崩収入	749百万円
貸付金元金回収収入	118百万円
資産売却収入	137百万円
その他の収入	26百万円
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 1,718百万円</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	1,820百万円
地方債償還支出	1,820百万円
その他の支出	0百万円
財務活動収入	1,462百万円
地方債発行収入	1,444百万円
その他の収入	18百万円
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 358百万円</b>
本年度資金収支額	468百万円
前年度末資金残高	1,730百万円
-	0百万円
<b>本年度末資金残高</b>	<b>2,198百万円</b>

前年度末歳計外現金残高	17百万円
本年度歳計外現金増減額	△ 9百万円
本年度末歳計外現金残高	8百万円
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>2,206百万円</b>

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

「**資金収支計算書**」とは、会計年度中における市の現金の収入(歳入)と支出(歳出)の収支を、業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支の3つの区分に分けて、資金の利用や獲得状況に関する情報を示すものです。

この区分けによって、投資活動収支では公共施設等の整備を積極的に行っている、基金を多く取り崩しているなどの状況を、財務活動収支では地方債の発行や元金償還の状況などを読取ることができます。

なお、「行政コスト計算書」には、発生主義による現金支出を伴わないコスト等が含まれていますが、「資金収支計算書」では現金の収支のみが記載され、また出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含むことから、「本年度末資金残高」は「歳入歳出決算書」の「歳入歳出差引残額」と一致します。

この計算書で算出された本年度末現金預金残高は「貸借対照表」の現金預金に連動します。

## 【業務活動収支とは】

行政サービスの提供に関する経常的・臨時的な行政活動に伴う資金収支をいいます。

## 【投資活動収支とは】

公共施設整備や基金積立・取崩など、市の資産の増減に伴う資金収支をいいます。

## 【財務活動収支とは】

地方債発行や元金償還など、市の負債の増減に伴う資金収支をいいます。